

新規アルツハイマー病治療薬 レカネマブ(レケンビ®)発売 にあたって

川崎医科大学附属病院における脳神経内科ものわすれ外来での実施について

このたび、川崎医科大学附属病院では、昨年末に発売された新規アルツハイマー病治療薬「レカネマブ(レケンビ®点滴静注)」について検査から治療後の対応まで全て当院で適正に使用する準備が整いましたのでお知らせいたします。

「レカネマブ(レケンビ®点滴静注)」はアルツハイマー病の原因物質である A β に対する抗体製剤であり、早期に投与することにより認知症の進行を約 2~3 年遅らせ、自立した生活期間の延長・就労支援が期待できる画期的な薬であるといわれています。ただし、希望されるすべての患者さんに使用できる治療薬ではなく、厚生労働省の「最適使用推進ガイドライン・レカネマブ」にのっとり、詳細な検査と正確な診断、病状や副作用について患者さんや介護者の方の注意深い観察、密な定期通院が必要となります。

検査から治療後の対応まで、すべて当院で適正に行うことができます。レカネマブ治療を希望される患者さんの受診予約から薬剤投与までの流れについて示します。ご希望される方はまずはもの忘れ外来を予約してください。

1. 予約から受診まで

当院のもの忘れ外来は予約制です。まずは電話にて予約が必要です(紹介状をお持ちの方は 086-462-1111、お持ちでない方は 086-464-1548 におかけください)。正確な診断と治療可否の判断にはこれまでの生活歴、治療歴などが重要ですので、初診時にはかかりつけ医からの紹介状・診療情報提供書のご持参をお願いします。もの忘れ外来は月曜日・火曜日の午後、金曜日午前に行っています。

*初診日は医師の診察のみでなく医療ソーシャルワーカーによる面談とご家族からの生活状況などの聴取、臨床心理士による認知症のスクリーニングテストがありますので時間がかかります。

2. 各種検査について

まずは現在の認知機能低下の原因を探り、正確な診断を行うために、神経心理検査、頭部 MRI、脳血流 SPECT や脳波検査、血液検査、心電図検査を行います。

3. 結果説明と治療法について

診察結果、各種検査結果からできるだけ正確な診断名をお伝えします。レカネマブの投与対象はアルツハイマー病による軽度認知障害(MCI)または軽度認知症に限定されています。レカネマブ治療をご希望の場合は、下記追加検査を行い、治療適応を検討する必要があります。レカネマブ治療対象外となる場合は、通常の診療とコリンエステラーゼ阻害薬などの治療薬や介護保険制度を利用したサービス利用について説明させていただきます。

す。

4. 追加検査について

レカネマブの治療を行うためには脳内にアミロイド β が蓄積していることを確認する必要があります。検査法は、髄液検査とアミロイド PET 検査の 2 つがありますが、当院ではどちらも実施可能です。

5. レカネマブ投与について

治療適応があると判断し、投与を希望される場合は、脳神経内科ものわすれ外来での 2 週間ごとの点滴治療を行います。投与開始後数か月は脳浮腫や脳出血などの副反応が生じる可能性が高いため、投与後 2 か月、3か月、6ヵ月目に頭部 MRI 検査などを行います。病状によっては追加検査や入院治療を要することもあります。

以上が大まかな流れとなりますが、詳細については認知症疾患医療センター(086-464-0661)または脳神経内科外来までお問い合わせください。Youtube チャンネルにて動画を掲載しています。

(<https://www.youtube.com/channel/UCTNUZvkqzcbEEAqEX5b4-YQ>)

:動画タイトル「第 12 回 専門職のための KAWASAKI 認知症セミナー」)